



2026年2月27日
第160号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

2月27日号

宗教法人靖國神社は明治時代の一八六九年、新政府軍と旧幕府軍との間で戦われた戊辰戦争で戦死した軍人を祀るために創建された「東京招魂社」が前身である。一八七九年に「靖國神社」へと改称し、明治維新からアジア・太平洋戦争までの戦没者240万人余を祀るが、いずれも天皇とその国家体制のためにはたたかって死んだ軍人・軍属のみである。安倍晋三元首相の靖國神社参拝をめぐり、マスメディアは『不戦の誓い』をしたなどという元首相の説明を無批判に流していた。靖國神社とは何か、首相の参拝が、なぜ世界から厳しい批判をあびるのか、当時の私は分からなかった。しかもこの問題の根本を解説する報道はほとんどみられなかった。

大日本帝国政府と軍部は、天皇への『忠義』を尽くし「靖國の英霊」になることを最大の美德として喧伝した。靖國神社を侵略戦争に国民全体を動員するための精神的な支柱として持ち上げたのだ。靖國神社への参拝が他国から問題視されるのは、A級戦犯が合祀されていることと、戦争の肯定や美化につながるという懸念があるためだ。事実、安倍首相は、『国に殉じた人に尊崇の念を示す』などと繰り返し返すが、祖父、岸信介元首相も東条内閣の閣僚を務めたA級戦犯であった。

遊就館ではA級戦犯らの写真を神として掲示している。日本は、サンフランシスコ平和条約で東京裁判を受け入れており、同裁判を否定することは国際社会との約束に反することになる。中国や韓国など、日本の侵略戦争で大きな被害を受けた国々からは、首相や閣僚の参拝は、侵略戦争を肯定するとみなされ、強い反発を受ける。こうしたことを、私は知らなかった。より広く知ってもらうため、昨年19日行動と合わせて行った靖國神社平和研修を今後も参加者を募って開催していく。(T.F)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。